

第三十回社会経済史学会大会

安岡重明

社会経済史学会第三十回大会は、五月二十日、二十一日、二十二日の三日間、滋賀大学経済学部において行われた。大会順序は次のとおりである。

第一日 五月二十日（土曜日）

自由論題報告

第一部日本史部会 午前十時より 於 十五教室

- (1) 日本古代の灌漑用水に関する一試論 淀川女子高校 竹内敏郎
- (2) 荘園における代銭納成立の条件 立正大学 佐々木銀弥
- (3) 商業史料としての今堀日吉神社文書 山本啓四郎
- (4) 前期的資本の集積と同族組織―鴻池研究の一節― 同志社大学 安岡重明
- (5) 武州埼玉郡における藍業 慶応義塾大学 佐々木陽一郎
- (6) 明治期における地主経営と地方経済事情 岡山関西高校 太田健一
- (7) 蒲原平野における第一次大戦以降の地主経営の動向 東京教育大学 加藤幸三郎

第二部 西洋史部会 午前十時より 於 十三教室

- (1) 資本主義成立史の研究をめぐって 武蔵大学 大谷瑞郎
  - (2) イギリス絶対王制の土地政策 東京大学 毛利健三
  - (3) マーチャント・アドヴェンチャラーズの衰没過程 東京大学 松尾太郎
  - (4) 航海条令とイギリス重商主義 小樽商科大学 浜林正夫
  - (5) フランス革命と「初起猛占」の解體 京都大学 服部春彦
  - (6) 十九世紀前半のイギリスにおける階級関係―その把握をめぐる最近の動向について― 関西学院大学 佐藤明
  - (7) ドイツ産業革命の性格について―主にプロイセンを中心に― 京都大学 大島隆雄
- 第三部 東洋史部会 午前十時半より 於 十一教室
- (1) 中国古代史における地域の問題（一試論）―鼎の置座を通じて見たる― 東京教育大学 木村正雄
  - (2) 漢代の振貸と公田の仮貸 立命館大学 平中岑次
  - (3) 中国綿業における綿替について 名古屋大学 波多野善大
  - (4) 清代における生産請負制 広島大学 横山英

(5) 交通銀行借款の成立事情について  
 —西原借款の一研究—

大阪市立大学 北村 敬直

公開講演 午後六時半より 於滋賀大学講堂

開会の辞 早稲田大学 小松 芳喬

明治維新の問題点 東京教育大学 榊 西光速

産業革命における人間の問題 東京外国語大学 五島 茂

閉会の辞 滋賀大学 江頭 恒治

第二日 五月二十一日(日曜日)

共通論題報告 午前十時より 於十五教室

「近代企業家の発生」

—資本主義經濟發生の一面—

(1) 問題提起 京都大学 堀江 保藏

(2) イギリス産業革命期における企業者活動 東京大学 中川 敬一郎

(3) ドイツにおける近代企業家の発生 関西学院大学 北村 次一

(4) アメリカにおける近代企業家發生の二事例  
 —木綿工業と機械工業—

早稲田大学 鳥羽 欽一郎

(5) 中国近代工業における企業家 都立大学 佐伯 有一

(6) 日本綿織紡績業における近代企業家の發生 京都大学 伝田 功

(7) 製糖業の近代化と二人の企業家  
 —鈴木藤三郎と中川虎之助—

横浜市立大学 服部 一馬

(8) 討論・総括

第三日 五月二十二日(月曜日)

見 学

多賀神社文書展観 (解説者) 京都大学 柴田 実

彦根城 (解説者) 彦根城国宝修理事務所 清水 栄四郎

開国記念館及び大老記念館 (解説者) 井伊大老史実研究会 末松 修

大会第一日では、西洋史部会の(1)(2)、日本史部会の(3)(5)(6)の報告をきいた。私のきいた範囲では、特に注目すべき報告はなかった。大谷氏の報告は、日本の經濟史学会における偏向ともいふべきものを批判したものであった。氏の批判は、史家がマルクスやレーニンの古典的著作を金科玉条のごとく守っていることにむけられたが、その批判は感想以上ではなかった。例えば、「二十才のときの著作だから」といったりせず、事実と理論によって批判すべきであった。

第二日の共通論題報告は、最近わが国でさかんになってきた経営史的研究の成果にもとずいてなされたものではあったが、私のきいた報告の範囲では、経営史が独自の方法をもっているとの印象はうすかった。報告者は經濟史専攻から経営史的研

にはいられた方々だし、また経済史の研究として報告されたものであるから、それも当然かも知れない。私も経済史を専攻して経営史に興味をもっているのだから、こうした問題は、今後も考えていきたいと思つている。なお堀江氏の問題提起は本年二月二十五日同志社大学商学部で開かれた経営史研究会関西支部会（仮称）第一回例会で発表された報告の骨子であつた。